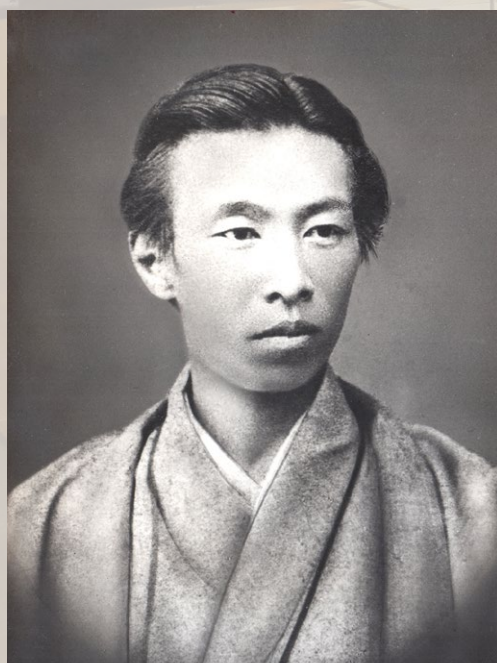


東京薬科大学史料館

TOUYAKU MUSEUM



東京薬科大学学祖
藤田 正方

東京薬科大学史料館

TOUYAKU MUSEUM

本学は1880年に学祖 藤田正方により創設された東京薬舗学校を前身に、我が国最古の歴史を誇る私立薬系大学として2020年に創立140周年を迎えました。開学以来、我が国の薬学の歴史と共に歩んできた薬学部に加え、1994年に開設された我が国初の生命科学部は、薬学・生命科学分野の発展に大きく寄与するとともに4万人を超える卒業生を輩出してきました。

今般、本学創立140周年記念事業の一環として、東京薬科大学の建学の精神と創立以来の先達による様々な挑戦の歴史や優れた卒業生のフロンティアとし

ての社会での活躍や寄与を学ぶ教育施設として、展示物のさらなる充実を図るため、史料館を改装いたしました。

この新しい史料館としての開館を契機に、学内外の皆様には本学と先達が薬学や生命科学、薬剤師のこれまでの発展に果たしてきた偉大な成果を歴史から学ぶ場として、また本学で学ぶ学生やその保護者、教職員、卒業生等関係する皆様には、自らの歩むべき道を考える自校教育の場として積極的に活用されることを期待しています。



図書館棟への正面階段付近にある藤田正方のレリーフ

contents

- P1 東京薬舗学校の創立
- P1.2 創立者 藤田正方の功績
- P3 私立薬学校から東京薬学専門学校創立までの先人の功績
- P4.5 東京薬科大学の変遷・学校等略歴年表
- P6 引き継がれる建学の精神
- P7.8 館内展示史料
- P9 館内配置図・ご来館の皆様へのお願い
- P9 史料提供のお願い

表紙の説明「丹波敬三の墨跡*」

東京薬学専門学校の初代校長に就任した丹波敬三は、平安時代から続く名門医家の血統。「淡斎」と号し、書をよくした。表紙の墨跡はその一つで、長寿を祈念し祝う「延寿萬(万)歳」の成語が書かれる。右の朱印(関防印)には「醍醐味」とあり、「正三位勲一等薬学博士丹波敬三書」と署したあと「丹波敬三」「淡斎老人」の落款印がある。

(*墨跡(ぼくせき):紙や布に墨書された肉筆、書跡・筆跡ともいう)

01／東京薬舗学校の創立

東京薬科大学の前身である私立東京薬舗学校は1880(明治13)年に旧越前国丸岡藩(現福井県北部)の藩医藤田家の藤田正方により創設されました。140年を越える歴史を誇る我が国最古の私立薬系大学である由縁です。明治の時代の若者は熱い志とそれを実行するエネルギーに溢れていましたが、藤田もその例外ではなく、この学校を創立されたのは34歳の時のことです。藤田が薬舗学校の創設を考えた真の理由は東京府知事あての「私立東京薬舗学校開業上申書」からうかがうしか術がありませんが、医師であった藤田はこの年齢までにすでに医師とは別に薬の専門家が必要であると考え、実学本意の薬舗主養成(薬剤師教育)の実現のため、複数の同志と共に無から学校創設に奔走し初代校長を務めました。

当時、薬舗主(今の薬剤師)の養成を意図した東京薬舗学校の創設は、その意味でかなりの独創性と将来の日本における必要性を見据えた先駆的な

行動であったことが推察されます。私学は建学の精神によりそれぞれの独自性がありますが、本学の教育にもこれがはっきり反映されてきました。



若き日の藤田正方

02／創立者 藤田正方の功績

藤田は1846(弘化3)年に生まれ1868(明治元)年に東京大学医学部の前身である医学所に入学しています。医学所は医学校を経て1869年には大学東校(初代校長・佐藤尚中、順天堂の創設者)に、また1872年には第一大学区医学校に改称されていますが、藤田は大学東校を1871年に卒業し、同校や第一大学区医学校で後進の指導にあたっています。

第一大学区医学校はさらに東京医学校に改称されます。本学の創設に関わった下山順一郎(私立薬学校初代校長・生薬学)や丹波敬三(私立薬学校監督、薬品鑑定学)は同医学校製薬学科の第一回

生であり、またこれに前後して森鷗外(森林太郎)や細菌学者となった北里柴三郎も同医学校に在学しており、凄まじいエネルギーが渦巻いていた明治のこの時代の医学や薬学、公衆衛生を作り上げていった俊英たちは藤田と同じ学統にあります。東京薬舗学校が創立された同じ1880年には日本薬学会の前身である東京薬学会が創立されています。学問としての薬学の充実のために研究の重要性も認識され始めた時期に薬舗学校も創設されていることから、本学の歩みは薬学の歴史とも重なることがわかります。

藤田は私立東京薬舗学校の創立からわずか6年

後の1886（明治19）年にコレラに感染し急逝しています。その当時流行したコレラ患者の治療に医師として関わり自らの命を落とす結果となったのでしょうか、あまりにも早い旅立ちであり駆け足で走り抜けた40年に満たない人生でした。もっと長く生きていれば藤田はさらに日本の医学・薬学に大きな足跡を残す多くの輝かしい業績を残したものと思われる。

藤田は東京薬舗学校で何を教えていたのでしょうか？当時は製薬のための教育が重要であったのか、薬舗学校の創立よりさかのぼること7年前の1873年にはアメリカ人のカッケンボスの物理教科書Natural Philosophyが藤田の翻訳により『理学新論』上・下巻として出版されています。また藤田が亡くなる2年前の1884年には東京薬舗学校校長藤田正方著による『簡明物理学』の教科書が物理装置の図なども入った教科書として出版されており、翻訳書とあわせ国立国会図書館に保管されています。もとより物理学は蘭学として天文学や数学などとともに国外の書物の翻訳書により我が国に導入

されたことが伺われますが、この書物は少なくとも物理学という呼び方の最初のころの1冊のようです。また藤田が東京薬舗学校で行った物理学の講義の講述書（当時の持ち主である薬舗学校生の署名が入った和装本）が見つかっており、藤田による当時の教育を知ることのできる貴重な史料です。このほか、藤田は大学東校卒業の1年後には計算法や単位換算法などについての『筆算知方』を、薬舗学校開設の年には『東京府病院薬局法』（1880年）を、また逝去のわずか17日前には日本薬局方の初版の薬舗主向けの解説書として『日本薬局方訓解』（1881年）を出版しています。最初の『日本薬局方』は翌年に内務省より公布されているので、この解説書の果たした役割は大きなものであったことが想像されます。藤田が医師でありながら薬学の基礎から臨床までの幅広い学識のもと、短期間のうちに多くの重要な書物を出版されていることに驚かされます。『東京府病院薬局法』は史料館で公開しています。

03／私立薬学校から 東京薬学専門学校創立までの先人の功績

1883年に私立東京薬舗学校は東京薬学校に改称されますが、1885年に麻黄よりエフェドリンを発見した長井長義（日本薬学会初代会頭）をのちに私立東京薬学校の顧問に迎えています。東京薬学校は藤田の亡き後を大井玄洞、山田董、熊沢善庵が交替で校長を務めながらこの学校の存続が守られました。

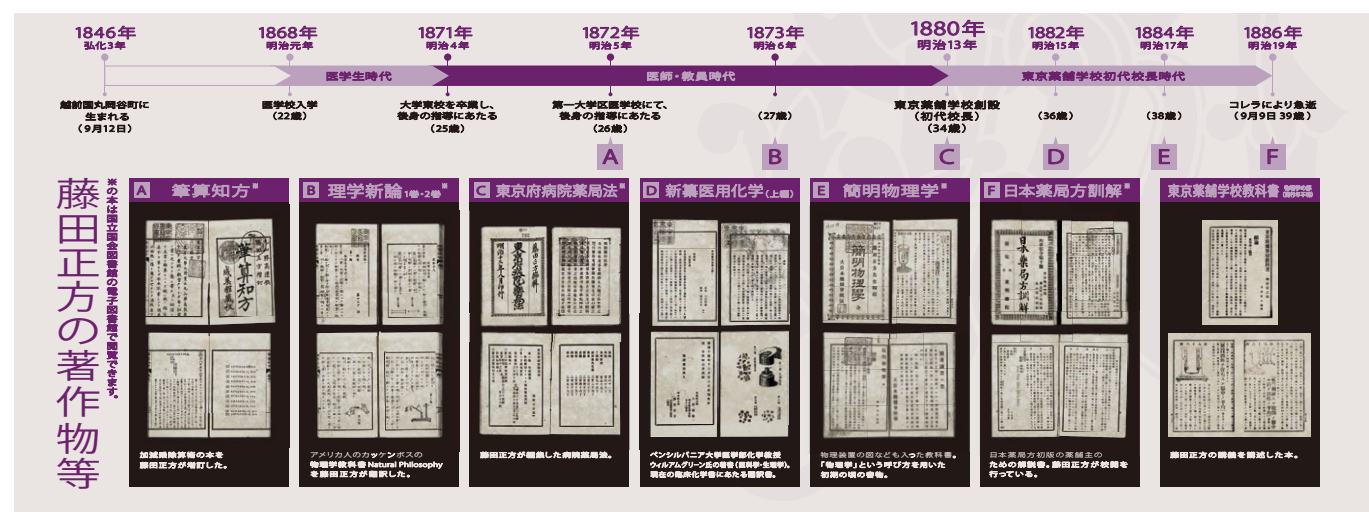
その後、1886年に設立された薬学講習所との合併後、1888年に私立薬学校が設立され、下山順一郎が「花咲け薬学」の建学の精神を定め、初代校長を務め薬学校としての基礎を固めました。下山は帝国大学医科大学（現東京大学医学部）の生薬学講座の初代教授として生薬学の基礎を作り、また我が国の薬学博士の第1号ともなっています。1893年には日本薬剤師会が設立され下山はその第2代会長も務めており、本学の歩みとともに我が国の薬剤師の歴史が刻まれたことも疑いありません。

私立薬学校はさらに私立東京薬学校への改称を経て、下山の没後1917年には東京薬学専門学校が設立され、丹波敬三が初代校長を務めます。丹波

は平安時代に我が国最初の医学書である『医心方』を編纂した渡来人の丹波康頼の子孫にあたり、東京大学薬学科の教授も務めています。北里柴三郎の門下生であった秦佐八郎は最初の化学療法剤である梅毒の特効薬、サルバルサンをエールリッヒのもとで発明していますが、丹波敬三はこのサルバルサンの国産化に成功しています。丹波校長の時代には北里柴三郎の次男でサポニンの構造研究などで帝国学士院賞も受けた化学者で、北里研究所所長も務めた北里善次郎が若き日に本学の教員であったことも史料から明らかにされています。1927年に丹波は逝去し、池口慶三が二代校長に就任しました。池口は薬剤師の地位向上に尽力し、本学発展のさらなる地盤を固めました。

さらに上野女子薬学校を経て1931年には東京薬学専門学校女子部が設立されています。

本史料館には下山順一郎のドイツ留学時代の写真や丹波敬三の墨跡、池口慶三による「薬律」についての原稿も展示しています。



下山順一郎
嘉永6年2月18日-明治45年2月12日
私立薬学校 初代校長

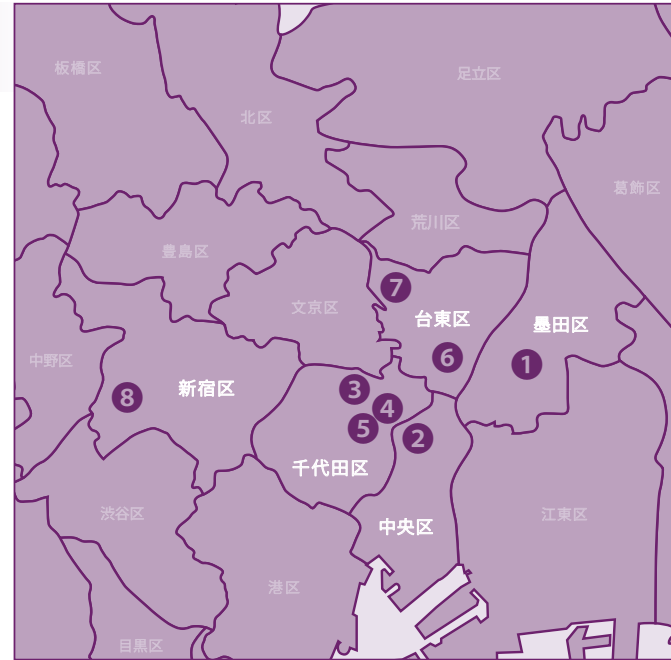


丹波敬三
安政元年1月28日-昭和2年10月19日
東京薬学専門学校 初代校長



池口慶三
慶応3年4月23日-昭和8年12月1日
東京薬学専門学校 二代校長

東京薬科大学の変遷



明治13年

1880年 東京薬舗学校設立

- 1880.11 東京市本所区亀沢町1丁目28番地 (藤田正方 自宅)
- 1881.11 日本橋区通2丁目3番地 (移転)
- 1883.3 神田区松住町 (仮校舎を一時移転)
- 1883.7 神田区岩本町23番地 (製薬業 小川忠四郎所有の工場敷地に校舎新築)

明治16年

1883年 東京薬学校 (校名改称)

明治21年

1888年 私立薬学校設立

- 1889.9 校舎手狭になり、下谷区西町小学校を借用して授業
- 1897.12 上野桜木町 (旧 東京薬大女子部所在地) に校舎を新築移転

明治33年

1900年 私立東京薬学校 (校名改称)

大正6年

1917年 東京薬学専門学校設立

- 1928.11 豊多摩郡淀橋町柏木に校舎新築



昭和24年

1949年 東京薬科大学設立

- 男子部 豊多摩郡淀橋町柏木
- 女子部 上野桜木町

昭和51年 1976.4 八王子市堀之内 1432-1

男子部、女子部を併せ、八王子キャンパスへ全学移転

明治19年

1886年 薬学講習所設立

- 1886 夏 神田区美土代町



昭和4年

1929年 上野女子薬学校設立

- 1929.4 上野桜木町 (東京薬学専門学校旧校舎)

昭和6年

1931年 東京薬学専門学校女子部 (校名改称)

- 上野桜木町



学校等略歴年表



私立東京薬学校校舎 (明治)



東京薬学専門学校校舎 (大正)



学祖
藤田正方 (1846-1886)
東京薬舗学校校長



下山校長時代の私立薬学校第1回卒業生 (明治22年6月)
前列左から平賀一風、大野文雄、丹波敬三、下山順一郎、前田三郎、長井長義、小林六一

東京薬舗学校設立 (創立者・校長: 藤田正方) (東京薬科大学の前身)

- 下山順一郎 医学校製薬学科卒業
- 丹波敬三 医学校製薬学科卒業

- 下山順一郎 医学校製薬学科入学
- 丹波敬三 医学校製薬学科入学

大井玄洞 大学区学校にて文部省上等出仕としてドイツ語通訳

藤田正方 第一大学区医学校にて後身の指導にあたる

藤田正方 大学東校卒業し、後身の指導にあたる

藤田正方 医学校 (東京大学医学部の前身) 入学

長井長義 第一回国費留学生としてドイツ留学 (1871年)

大学東校に改称 (初代校長: 佐藤尚中) (1870年)

医学所に改称 (1868年)

医学所創立 (東京大学医学部の前身) (1861年)

藤田正方と本学の歩み

社会の歩み

明治13年
1880

日本薬学会

の前身の東京薬学会創立 (1880年)

東京医学校と東京開成学校 (大学南校) との
統合により旧東京大学医学部設立 (1877年)

北里柴三郎 医学校入学 (1875年)

東京医学校に改称 (1874年)

森鷗外 (森林太郎) 医学校入学 (1873年)

第一大学区医学校に改称 (1872年)

明治5年
1872

明治4年
1871

明治3年
1870

明治2年
1869

明治元年
1868

明治18年
1875

明治17年
1874

明治16年
1873

明治15年
1872

明治14年
1871

明治13年
1870

明治12年
1869

明治11年
1868

明治10年
1867

明治9年
1866

明治8年
1865

明治7年
1864

明治6年
1863

明治5年
1862

明治4年
1861

明治3年
1860

明治2年
1859

明治1年
1858

明治0年
1857

明治-1年
1856

明治-2年
1855

明治-3年
1854

明治-4年
1853

明治-5年
1852

明治-6年
1851

明治-7年
1850

明治-8年
1849

明治-9年
1848

明治-10年
1847

明治-11年
1846

明治-12年
1845

明治-13年
1844

明治-14年
1843

明治-15年
1842

明治-16年
1841

明治-17年
1840

明治-18年
1839

明治-19年
1838

明治-20年
1837

明治-21年
1836

明治-22年
1835

明治-23年
1834

明治-24年
1833

明治-25年
1832

明治-26年
1831

明治-27年
1830

明治-28年
1829

明治-29年
1828

明治-30年
1827

明治-31年
1826

明治-32年
1825

明治-33年
1824

明治-34年
1823

明治-35年
1822

明治-36年
1821

明治-37年
1820

明治-38年
1819

明治-39年
1818

明治-40年
1817

明治-41年
1816

明治-42年
1815

明治-43年
1814

明治-44年
1813

明治-45年
1812

明治-46年
1811

明治-47年
1810

明治-48年
1809

明治-49年
1808

明治-50年
1807

明治-51年
1806

明治-52年
1805

明治-53年
1804

明治-54年
1803

明治-55年
1802

明治-56年
1801

明治-57年
1800

明治-58年
1799

明治-59年
1798

明治-60年
1797

明治-61年
1796

明治-62年
1795

明治-63年
1794

明治-64年
1793

明治-65年
1792

明治-66年
1791

明治-67年
1790

明治-68年
1789

明治-69年
1788

明治-70年
1787

明治-71年
1786

明治-72年
1785

明治-73年
1784

明治-74年
1783

明治-75年
1782

明治-76年
1781

明治-77年
1780

明治-78年
1779

明治-79年
1778

明治-80年
1777

明治-81年
1776

明治-82年
1775

明治-83年
1774

明治-84年
1773

明治-85年
1772

明治-86年
1771

明治-87年
1770

明治-88年
1769

明治-89年
1768

明治-90年
1767

明治-91年
1766

明治-92年
1765

明治-93年
1764

明治-94年
1763

明治-95年
1762

明治-96年
1761

明治-97年
1760

明治-98年
1759

明治-99年
1758

明治-100年
1757

明治-101年
1756

明治-102年
1755

明治-103年
1754

明治-104年
1753

明治-105年
1752

明治-106年
1751

明治-107年
1750

明治-108年
1749

明治-109年
1748

明治-110年
1747

明治-111年
1746

明治-112年
1745

明治-113年
1744

明治-114年
1743

明治-115年
1742

明治-116年
1741

明治-117年
1740

明治-118年
1739

明治-119年
1738

明治-120年
1737

明治-121年
1736

明治-122年
1735

明治-123年
1734

明治-124年
1733

明治-125年
1732

明治-126年
1731

明治-127年
1730

明治-128年
1729

明治-129年
1728

明治-130年
1727

明治-131年
1726

明治-132年
1725

明治-133年
1724

明治-134年
1723

明治-135年
1722

明治-136年
1721

明治-137年
1720

明治-138年
1719

明治-139年
1718

明治-140年
1717

明治-141年
1716

明治-142年
1715

明治-143年
1714

明治-144年
1713

明治-145年
1712

明治-146年
1711

明治-147年
1710

明治-148年
1709

明治-149年
1708

明治-150年
1707

明治-151年
1706

04／引き継がれる建学の精神

戦後の1949（昭和24）年には東京薬学専門学校と東京薬学専門学校女子部を合わせ現在の東京薬科大学の男子部と女子部となり村山義温初代学長のもと、その設置が認可されました。東京薬科大学はその後他学に先駆け新たなチャレンジを度々行ってきたことも歴史から学ぶことが出来ます。1965年には大学院薬学研究科の博士課程を開設しています。旧帝大の国立大学薬学部を除いて他の国立大薬学部はこの12年後に博士課程が開設されており、本学の大学院博士課程の開設が旧帝大薬学部以外の薬学部にも先駆けたるものであり、この時代に支えた本学の諸先輩が研究者の養成にも強い関心を有していたことが伺えます。多くの卒業生が国公立大学や研究所、企業などで優れた研究者として活躍していることがその成果として裏付けられます。

一方で東薬大は医療人としての薬剤師の育成についても他学に先駆け医療薬学の専攻科を1976年に開設しています。2006年に我が国の薬学部は4

年制より6年制への歴史的な転換が図られましたが、本学はすでにこの時代の到来を考え、この専攻科を通じ医療薬学分野で活躍する人材の育成も図るなど多くの先駆的なチャレンジを行ってきました。また1994年には我が国初の生命科学部を設置することで、薬学と生命科学分野の融合と連携を意図した新たなチャレンジも他学に先駆け行っています。

創立からこれまでの本学の歴史を、将来を担う学生や若い教員が知ること誇りをもち、積極的に社会で新たなチャレンジを行っていく精神を教えていくことも大切であり、その一端の役割を史料館が担えれば幸いです。史料館には本学の創設者に関わる史料、卒業生の活躍を示す史料だけではなく、本学の歩みが薬学や薬剤師の歴史とも重なることから薬学や薬剤師、薬業、生命科学などに関する史料も蒐集し、我が国の薬学、生命科学史料館の役割も果たせればと願ひ各位のご協力をお願いする次第です。



私立東京薬学校（1912（大正元）年）の卒業アルバムから

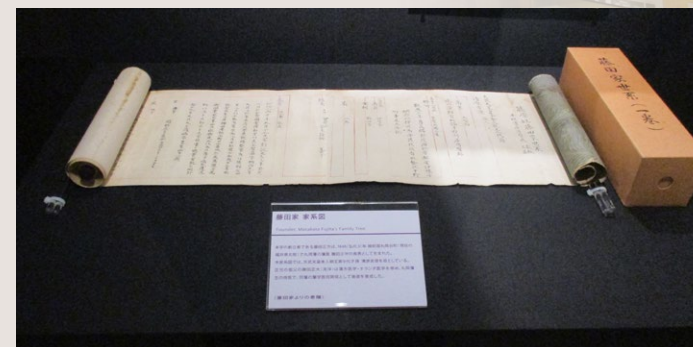


館内（本学の歴史展示コーナー）

館内展示史料

東京薬科大学の歴史

本学のあゆみ、創立者、先人の功績、明治時代から八王子キャンパス移転までの歴史を展示しています。



創立者 藤田家 家系図（藤田家よりの寄贈）



下山順一郎手製の生薬標本（明治時代）
下山直筆のラベルを貼った私立薬学校時代の生薬標本の実物



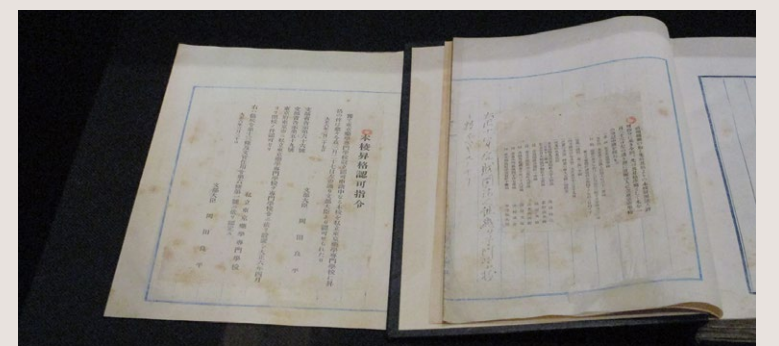
私立薬学校校舎建築費 寄附者姓名録



「東京府病院薬局法」
藤田正方 編集
1880（明治13）年
今日の薬局方のような薬物単味の品質規格集を中心としたものでなく、処方集、製剤手引き集



生薬学（上巻・下巻）
下山順一郎 著



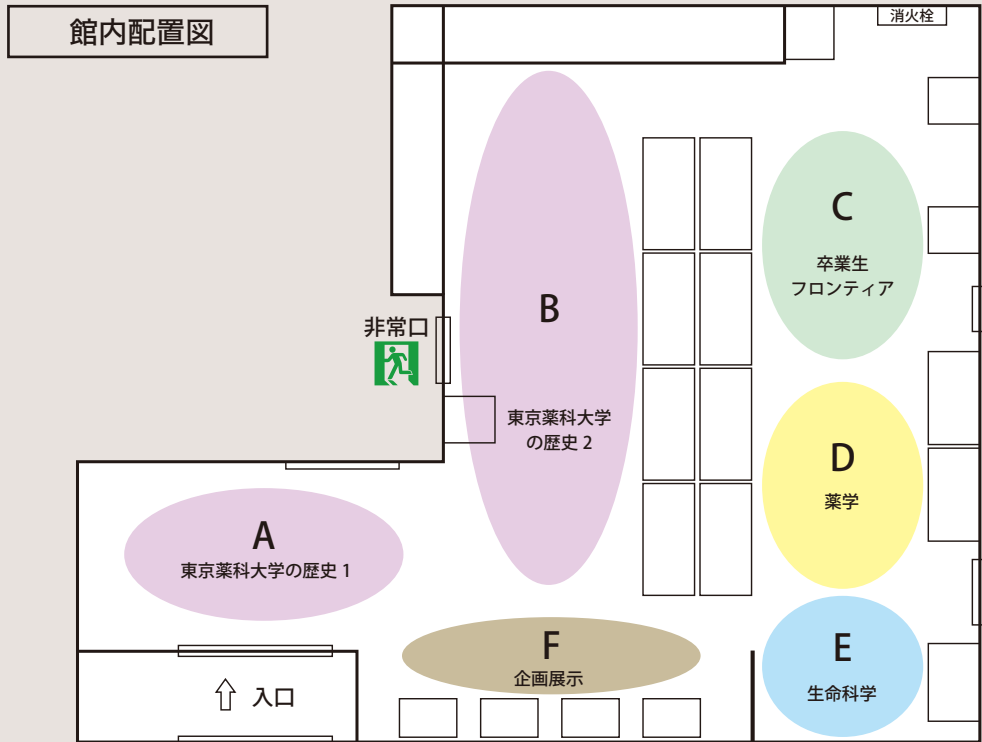
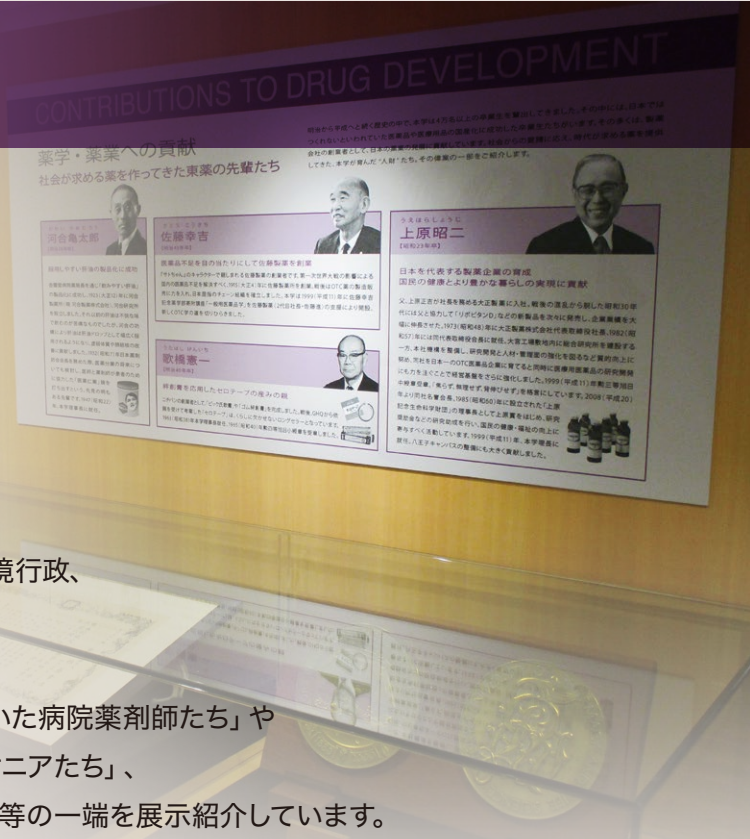
「東京薬学専門学校」への昇格の準備として、丹波校長自ら先頭に立ち文部省へ申請を行い、認可を得た「財団法人私立東京薬学校」の登記申請と、「東京薬学専門学校」の設立認可指令

卒業生フロンティア

本学は我が国初の私立薬剤師養成機関、薬学・生命科学教育機関としてこれまでに4万人にのぼる卒業生を社会に輩出しており、その多くが社会の様々な分野でフロンティアとして活躍しています。

本史料館では、
多様な社会で活躍した卒業生として、
「国際的に活躍した先輩たち」や
「薬剤師の政治家として我が国の医薬分業や環境行政、
薬剤師の地位向上に貢献した先輩たち」

薬学、薬業へ貢献した卒業生として、
「患者のために必要な医療薬学の基礎を切り開いた病院薬剤師たち」や
「『実学本位』の薬学校が育てた薬剤師のパイオニアたち」、
「社会が求める薬を作ってきた東薬の先輩たち」等の一端を展示紹介しています。



ご来館の皆様へのお願い

ご来館の皆様にご快適にお過ごしいただくとともに、展示史料にとってより良い環境が保てるよう、以下の点にご協力いただきますようお願いいたします。

【史料館へ入る前に】

- ・大学構内は、史料館も含め全ての場所が禁煙です。
- ・カサは傘立てにお立ていただくか、ご自身のバックへお入れください。
- ・危険物、動物、植物の持ち込みは禁止といたします。（但し、盲導犬などの補助犬は一緒に入館できます。）

【史料館の中で】

- ・館内での飲食はご遠慮ください。
- ・展示品、展示ケースには触れないでください。
- ・展示品を汚損する可能性のある万年筆・毛筆などの使用はご遠慮ください。
- ・静止画や動画などの撮影はご遠慮ください。
- ・館内での携帯電話やスマートフォンの通話はお控えください。
- ・館内ではお静かにご鑑賞ください。又、他のお客様の迷惑になる行為はご遠慮ください。

史料提供のお願い

本学や薬学・生命科学の歴史に関する史料を蒐集しており、ご提供いただいた貴重な史料は、大学で責任をもって保管し随時展示させていただきます。

【提供をお願いしたい史料】

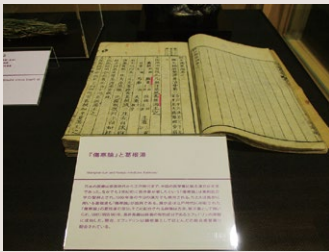
- ・創立者（藤田正方・下山順一郎・丹波敬三・池口慶三）や本学の歴史に関わるもの（書簡や用具等）
- ・薬学・生命科学の歴史に関わるもの
- ・薬業に関わるもの
- ・薬剤師の歴史に関わるもの
- ・卒業生の社会での活躍に関わるもの
- ・その他本学の歴史上、特記できるようなもの

薬学、生命科学

薬学、生命科学や現在の本学の発展に関する史料を展示しています。



薬剤師試験及第之証
1914 (大正3) 年



ミハエリス式簡易水素イオン濃度測定装置
1929 (昭和4) 年頃



桿秤
1868 (慶応4) 年



我が国初の生命科学部の誕生を支え、
新たな歴史を拓いた生命科学の先駆者たち

東京薬科大学 八王子キャンパス MAP



藤田正方先生の碑

東京薬科大学史料館



東京薬科大学史料館 利用案内

【開館日】月曜日～金曜日（祝日・大学休校日・入学試験日は休館）

【開館時間】9:00～16:00

【入館料】無料

【場所】東京薬科大学 八王子キャンパス内

※開館日時等は東京薬科大学史料館ホームページでご確認ください。

〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1

TEL:042-676-5261（史料館直通）

TEL:042-676-5111（代表）

<https://archives.toyaku.ac.jp/>